

2023年度 関西学院大学 海外客員教員(招聘A) 成果報告書

書式 2

(適宜行追加可 Additional lines can be added as needed)

受入担当 教員	所属・職	言語コミュニケーション文化研究科・教授
	氏名	李 建志
海外客員 教員	所属・職	淡江大学 外国語文学院日本語学科 准教授
	氏名	徐 佩伶
招聘目的	1. 授業担当及び研究 ②. 共同研究 3. 特別枠 (いずれかに○)	
招聘期間	2023 年 10月 1日 ~ 2024 年 1月 31 日	
成果報告 Achievement Report	<p>(1) 共同研究の内容</p> <p>研究プロジェクトは「連体節における主語の「ガ・ノ交替」と形式名詞「ノ」「コト」との共起制限について」である。主語のガ・ノ交替は、主格主語と属格主語が特定の環境の中で交替が起こるという現象を指す。この現象は日本語に限らず、アルタイ言語の中でよく現れる言語現象の一つである。生成文法の枠組みで属格主語の認可条件に関して様々な言語で議論されている。そこで、言語理論と言語記述の二つの側面から研究を行った。まず、日本語の主語・属格の認可条件に加え、他のアルタイ言語にある属格主語の認可条件に関する文献を読み、認可条件のメカニズムについての理論的背景を整理した。言語記述の面において、日本語のガ・ノ交替と形式名詞ノの共起に関する例文を作り、李教授のご協力で、20代から60代の日本語母語話者に容認性判断をしてもらって分析し、研究を進めた。同時に、属格主語の性質を探求するために、日本語だけではなく、アルタイ言語のうちのツングース言語であるシベ語をも考察した。シベ語における主格・属格主語の交替と日本語の主格・属格の交替とを比較したうえで、言語間の類似と相違がより明確に見え、研究の視野が一層広がった。</p> <p>(2) 共同研究の成果</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「日本言語学会」「日本北方言語学会」「中日理論言語研究会」に参加し、2023年11月18-19日新潟大学で開催された「日本北方言語」で属格主語に関する研究を口頭発表した。 ・「形式名詞「ノ」節におけるガ・ノ交替の制限に関する一考察」と題する論文を執筆した。 	
受入担当教員コメント (日本語で記載)	短い研究期間を極めて有効に活用し、立派な研究の端緒を切りひらいたと評価しております。	

海外客員教員が成果報告欄をご自身で記入される場合は本書式をお使いください。

* 本報告書は本学ウェブサイト等で公開されます